

## Notebook LM で読み解く“AI との対話”

### — 活用法と深まる理解 —

---

#### 1. Notebook LM とは何か

Notebook LM は、Google が開発した先進的な AI ツールで、ユーザーが提供した文書や情報に基づいて、関連する要約・質問応答・マインドマップ生成などを可能にする「文脈特化型 AI アシスタント」です。

特筆すべきは、ChatGPT や Claude のような汎用型チャット AI とは異なり、Notebook LM は「事前にアップロードされた情報に基づいた対話に限定される」という点です。これは、情報の出所を明確にし、誤情報や幻覚 (hallucination) を抑制する設計思想に基づいています。ビジネス文書や政策資料、専門的な学術文献といった「確かな情報源」を扱う際に、高い信頼性を発揮します。

さらに、Notebook LM はユーザーの質問に対して、文書の中のどの部分に基づいて答えているかを示すリンク付きで返答するため、出典確認も容易です。これは情報リテラシー教育の観点でも極めて優れた機能といえるでしょう。

---

#### 2. 実践での活用事例

今回の勉強会では、Notebook LM の活用例として以下のような実演が行われました。

- 専門用語の定義や該当箇所の抽出
- マインドマップ機能を活用し、文書の構造的理解を視覚化
- 日本語の文章に対して音声読み上げを生成し、内容の聴覚的確認

これらの機能は、単なる「要約ツール」ではなく、**知識の再構造化**や**学習プロセスの可視化**を支援するインテリジェントアシスタントとしての価値を示しています。

活用が期待される領域には、以下のようなものがあります。

- 調査・研究業務：大量の文献を統合的に把握
- 企画業務：外部資料からアイデアの抽出や分類
- 教育現場：教材への補足的理解促進

---

#### 3. 深まる“AI との対話”の視点

Notebook LM を活用する上で鍵になるのが、「AI に正解を求める」のではなく、「AI を通じて問いを深める」という姿勢です。

人間は、文脈や背景を踏まえて思考を行います。一方、AI は統計的な予測で答えを導きます。そのため、AI から出力された答えに対して、「**なぜこの答えが出たのか？**」を**考える**こと自体が、認知のプロセスを拡張する行為となるのです。

Notebook LM のように、限られた文脈内でしか応答しない AI は、逆にその制約の中で、**思考の手がかりを整理し、補助線を引くような存在**として価値を持ちます。

特に勉強会のような「共に探究する場」において、AI は参加者間の対話を引き出す“第三の視点”となり、思考の深まりを促進する効果をもたらします。

---

#### 4. Notebook LM と共にあるこれからの学び

AI が急速に進化する中で、「ツールとしての使い方」だけでなく、「どのように共に思考するか」が問われる時代に入っています。

Creative Guild では、こうした AI との共進化をテーマに、気軽に参加できる勉強会の形を模索してきました。Notebook LM のようなツールを、日常の思考・対話・仕事のなかにどう取り入れていけるかは、これからの個人と社会の成熟度を測る指標にもなるでしょう。

今後は、Creative Guild 自体の情報を Notebook LM に読み込ませて、組織理解や未来構想に活かす試みも予定されています。このようなツールと人間の協働から生まれる学びの可能性を、今後も共に探究していけたらと考えています。

#### ※ご注意ください

本資料は、Creative Guild で開催した勉強会の内容をもとに、AI（ChatGPT）を活用して自動生成されたものです。内容の正確性や完全性については保証できない点をご理解ください。ご自身の判断や追加の調査とあわせてご活用いただければ幸いです。Creative Guild は本資料の内容に対する責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。